

桜井市議会議員 やすおき つちや靖起

士 家



活動報告
第54号

連絡先 633-0064 桜井市戒重57 電話0744・43・9288 FAX0744・43・9295
メール tuchiya@seikatubunka.jp

学校給食

地場産物の使用率、目標値まで届かず 食育の推進さらさら

桜井市議会の土家靖起は、3月定例会の一般質問に登壇し、朝食を抜く子どもが増加する中、2月13日から稼働した学校給食センターで地場産物を使用している割合や、保育所、幼稚園、小学校での食育の推進への取り組みについて市の考えをただしました。給食での地場産物の使用率は現在17.64%で、国が定める目標値の30%には届いていません。市の将来を担う子どもたちへ正しい食習慣や、地場産物への理解を進めるよう要望しました。

自ら取り組み、子に伝える食育については、陽だまりフェスタにおいて奈良県三輪素麺工業協同組合から特産品であるそうめんを提供いただき、郷土料理についての理解を深めた。

土家 保育所、幼稚園、小学校に通う子どもたちの朝食、欠食者は年々増加していると言われている。家庭の事情、貧困による欠食も多数あり、学校給食における食育推進の取り組みが非常に重要であると考えている。その取り組みと成果について聞きたい。

市長 昨年度、三輪素麺条例を制定し、保育所でも7月7日に三輪素麺を給食で提供した。また、月1回程度、給食に三輪素麺をいろいろなメニューで提供しており、子どもたちの好評を得ている。

福祉保健部長 保育所では菜園活動やクッキング活動を行い、食育推進をしている。しかしながら、朝食を食べて来ない子どももあり、家庭への啓発が課題だと考えている。

教育長 幼稚園と学校では、給食を通して食の大切さ、マナーなどを指導したり、クラスの中で楽しく食べるということにより、共食の大切さを体感できるように取り組んでいる。また実際に作

物を育て、それを調理して食べるということにより、食への興味、関心を高める活動を行っている。学校給食センターでは、2人の栄養教諭、また栄養士が学校の担任と連携し、子どもたちが直接野菜に触れる出前授業を行っている。今後とも学校と給食センターが一体となって、食育の取り組みを推進していきたい。

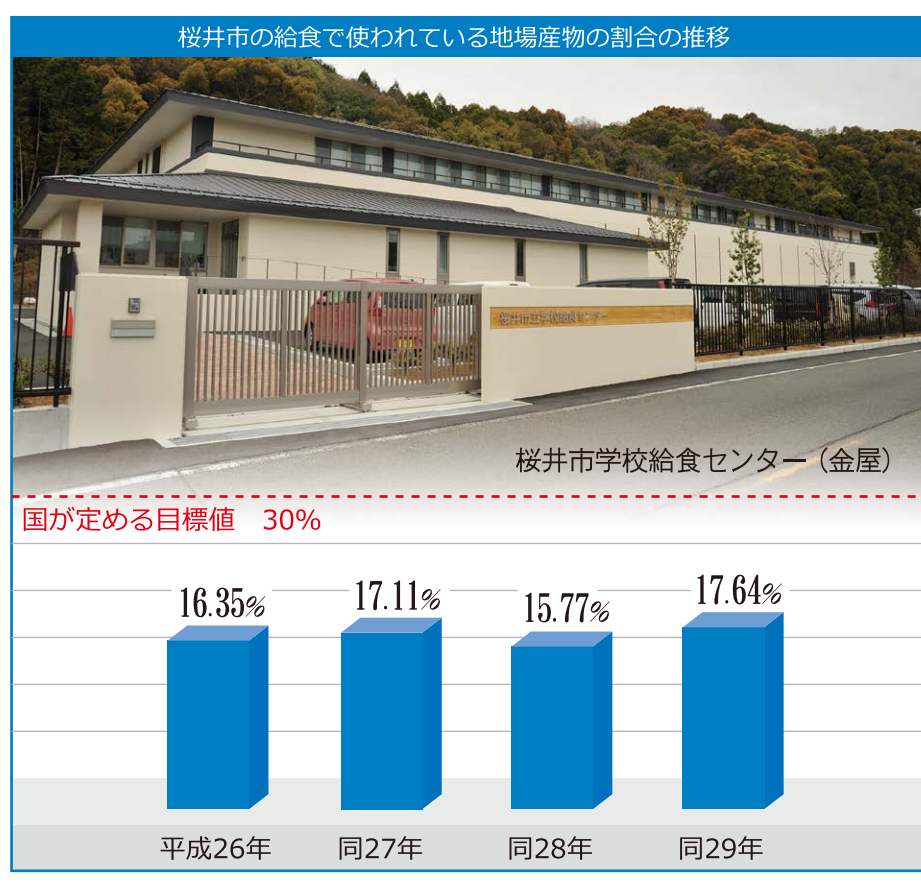
土家 市の将来を担う子どもたちの食育、育成は非常に大切。市のためにも食育をさらに推進していくことを要望する。

教育長 今年度2月までの10カ月を平均して17.64%になっており、目標の30%には届いていない。しかし徐々にその割合は増加傾向にあると思っている。今後、学校給食センターでさらに地場産物を使用する割合を増やすようにしていきたい。

土家 桜井市では健康づくりを食の面から支え、食育を統括的に推進するため平成26年3月に食育推進計画を策定したが、それから4年、どのように取り組んでいるか、課題と成果について聞きたい。

市長 生活習慣病の予防改善については、食生活推進改善委員会などと共同で検診受診後の食事指導を実施した。また歯の健康の推進について市では、27年3月に県内でいち早く口腔の健康づくり推進条例を制定し、市歯科医師会の先生方にご協力をいただきながら、歯科講習会や陽だまりフェスタにおいて、歯の健康についての啓発を行っている。

加えて、楽しく食事をする習慣づくりでは、オーベルジュを活用し、家族や仲間と楽しい食事をする経験や、教則を通じて箸の持ち方やマナーなどの教育を実施している。



景観保全や防犯上の問題懸念

市とシルバー人材センター

適正管理へ連携協定

増加傾向の空き家

桜井市は、古くから信仰を集めてきた三輪山を中心に、素晴らしい景観を作り上げていますが、近年増加傾向にある空き家やシャッター街などをはじめ、景観を生かすきれいな状況にもなっています。適切な維持管理がない空き家は、倒壊や防犯上の懸念があります。市の対策について一般質問を行いました。市は3月23日、市内の空き家の適正な管理を推進するため、市シルバー人材センターと連携・協力する協定を結びました。

土家 桜井市では景観計画を策定し、空き家問題についても、空き家対策を新設しているが、これまでの具体的な対策を聞きたい。

市長 議員がお述べの通り、空き家の増加は地域の活力や防犯力の低下、特に街並みの景観を損なう。市では平成28年度から「桜井市空き家等対策計画」を策定し、安全性などをはじめ課題に対応するとともに、空家の積極的な活用に取り組んでいる。

具体的には常設相談窓口の設置や、桜井市空き家バンクの開設、セミナー、相談会などの開催を行った。また固定資産税の納税義務者に向け、空き家バンク啓発チラシを送付、相続予定者への啓発など、空き家化の予防や適正管理に努めている。

土家 この「桜井市空き家等対策計画」では今後5年間の景観ガイドラインの策定、重点景観形成地区での空き家改修支援が盛り込まれているが、これらの状況はどうか。

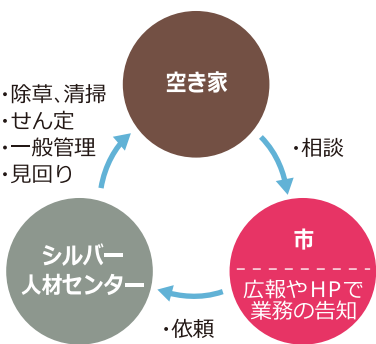
都市建設部長 重点景観形成区域に位置付けられている区域のうち、住民主体の

皆さまの意見を反映したうえで、正式な手引とし、景観審議会に諮り、景観ガイドラインを制定する。

土家 景観ガイドラインを策定し、重点景観形成区域で空き家改修支援を早く行うべきと考えている。この改修案について、どのような考えがあるか。また財源は。

都市建設部長 県とのまちづくりに関する包

空き家などの適正管理に関する協定



桜井市と市シルバー人材センターは3月23日、市内にある空き家の適正な管理を目的に連携・協力する協定を結び、4月1日から開始しました。市の常設相談窓口などで、空き家所有者の相談を受けた市からシルバー人材センターへ依頼。センターは見回り点検や除草清掃作業、植木のせん定、一般管理の作業を有償で実施します。

土家 訪れたい街、住みたい街となるよう、街並み景観の維持保全と、空き家対策についてしっかりと取り組んでもらいたい。

災害時 避難行動要支援者への情報伝達 市へ強化案を提案

このほか市議会3月定例会では、災害時における情報伝達の強化について質問しました。台風や集中豪雨など災害の発生や危険性が高まる中、避難行動要支援者およびその支援者に対して理解しやすい、わかりやすい言葉で伝達することが大変重要になっています。これらの強化について市の考えをたどりました。

土家 スマートフォンや携帯電話を持たない高齢者をはじめ、避難行動要支援者とその支援者に対し、迅速かつ確実に情報伝達を行う何らかのハード整備が必要ではないか。

市長 災害時の情報伝達としては、区長への連絡、安心安全システム、エリアメール、ホームページでの情報発信を行っている。安心安全システムによる情報提供には、メール配信だけでなく、スマート

受信機による住民への情報伝達の考えはないか。

市長 危機管理課においてさまざまな情報伝達の手段の検討を行っているが、財政上のことも勘案しながら、なかなか進めていけないのが現状。今ある安心安全システムの周知を図り、登録者数を増やすことを努力していきたい。

土家 なかなか個別受信機は難しい部分もあるが、県内の一部の市では取り組みを進めている。特に山間地を抱える市では、

市長 ご指摘のように集落の孤立の恐れがあることから、平成25年に無線機の配備を行った。屋外スピーカーについては、中山間の地域が広く、伝達エリアに限られることもあり、現状で設置は難しいと考えている。

土家 海外からの観光客、インバウンドに力を入れていく桜井市だが、これらの方々へ、災害時の多言語による情報伝達はどうか。

市長 現時点では具体的な対応策がない。県とも協議を行いながら、どのような方策があるのか、今後検討していきたいと考えている。

土家 今後、これらの課題を踏まえ、安心安全なまちづくりにしっかりと取り組んでもらいたい。

「ごあいさつなどは議員活動を優先させて頂きますため、略させて頂きますが、市民の皆様にはご了承の程、よろしくお願ひ申し上げます。」

「メイドイン桜井」で子どもたちを育む

市民の皆さまには、日ごろから土家の議会活動に対し、格別のご支援とご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

市議会3月定例会で土家は、オープンした学校給食センターをはじめ、保育、教育現場での食育について取り上げました。

昨年、三輪素麺条例が制定され、ふるさとの産品を未来ある子どもたちがさらに親しみ、誇りを持ってもらいたいと願っています。

桜井市の給食に使われている地場産物は現在17.64%とのことですが、そうめんだけにとどまらず、多くの「メイドイン桜井」の米、野菜、産物で子どもたちを育むようになればと切に願っています。

(土家靖起後援会会長・勾田義浩)

つちや靖起

現職
桜井市議会議員
桜井市ソフトボール協会顧問
戒重区顧問
桜井西地区社会福祉協議会会長
NPO法人理事

主な経歴
桜井市市長公室長
平成15年桜井市議選初当選
平成19年桜井市議選2選
平成23年桜井市議選3選
平成24年桜井市議選議長
平成27年桜井市議選4選

市政に対する要望・ご意見・ご提言をお寄せ下さい。

メール tuchiya@seikatubunka.jp
633-0064 桜井市戒重57 電話0744-43-9288